

小規模企業景気動向調査(2月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

地域に外国人旅行者の姿も多く見受けられるようになり交流人口の増加が著しい。コロナ感染が落ち着いてきたことにより飲食店等地元消費も戻りつつある。

(仙北市商工会)

消費者は収入が変わらずに増え続ける負担の影響から消費行動は鈍化傾向にあるものの、健康関連商品へのニーズや今まで制限されてきた外食、旅行ニーズは好調であり一定数を維持している。

(富山市八尾山田商工会)

コロナ感染の事業に対する影響は、昨年と比べかなり緩和した感じがします。物流の状況も改善傾向であり、仕事が滞るという声も聞かなくなりました。ただ、製造業は特に顕著に感じますが、同じ業種内でも、取り扱う製品、製造技術やサービス、加えて取引先によって、企業間の格差の開きが今まで以上に大きくなった

(宝達志水町商工会)

お祭りなど、徐々に地域行事なども通常に戻りつつあり景気にも好影響を与えるような案件も垣間見えるようになってきた。

(武豊町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

売上金額はアップしているが、仕入価格等、及び電気・水道・ガスなどの固定費も増加していることで、収益性の低下している事業所が増加傾向にある。

(青森市浪岡商工会)

新型コロナの感染状況は落ち着きつつあるものの本格的な売上の回復には至っていない上、価格に転嫁ができず、長引く原材料費や燃料費高騰の物価高の影響により利益が確保できない状況にあり、主に小規模事業者の決算書に表れている。

(かづの商工会)

新型コロナウイルス感染の影響が少なくなってきた感はあるが、電力、資材、原油高騰の影響が変わらず起こっており、先行きの不透明さから消費の回復感が薄い。

(矢吹町商工会)

サービス業を中心に新型コロナウイルスの感染者数の減少とともに景況は好転してきたが、原材料価格高騰や人件費の増加など事業に必要な仕入、経費が増大している。利益率の減少を事業拡大によりカバーしようにも設備の導入に1年近くの時間がかかることや人材の調達できないことなど手詰まりの状況が見られ

(志布志市商工会)

業種によってはコロナ後売上が回復せず、4月から始まるコロナ融資の返済ができないところもある。政府による返済据え置き措置の要望がでている。

(瑞穂町商工会)

電気料金の値上りは動力の大きい製造業や理美容業に影響を及ぼしている。一方で価格転嫁が充分にできないため利益を圧迫している。

(古川町商工会)

サービス業や飲食店の客も戻りつつある一方で、零細経営でコロナ給付金でしのいできた店舗等は廃業する事業所もあらわれはじめた。

(掛川みなみ 大須賀)

企業形態や事業規模に関わらず、全業種・全業態に亘って原材料等価格およびエネルギーコスト高騰の影響を受けている。(逆に高騰していないモノが皆無に等しい) 原価や管理費の削減に努めているが、限界に達してきている。

(雲南市商工会)

旅館業については、増加傾向にあり、人の動きは活発になっている。一方で価格の高止まりや物価高騰の影響で厳しい状況が続いている。顧客離れを心配する事業所も多いため、価格転嫁が進んでいない。製造業は安定した受注を確保しているものの経費の圧迫に加え、人手不足により生産量が頭打ちとなっている。また従業員の高齢化・後継者不在により今後の事業継続の見込みが立たない事業者も見られる。アパレル、理美容についてはコロナが落ち着き始めた春に向けて需要回復の期待が持たれる。仕入単価の高止まりや高騰に対する支援が必要と思われる。

(みまさか商工会 勝央支所)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

食料品製造業の多くは出荷額の回復基調が継続しており、業況は好転している。水産加工業で主力製品(穴子)の原魚確保が不漁のため困難となっている事業者があり、他の製品製造を余儀なくされている。

(石中央商工会)

コロナ禍も落ち着き島外を中心に加工食品の需要が増加している。原材料、燃料等の高騰の影響もあるが、価格転嫁を行っている事業者もあるなどこの変化に対応できている。

(屋久島町商工会)

前年比はプラスに転じ、コロナの影響が減少したように感じている。売上増加の期待感はあるが、原材料の他電気など諸経費増が収益を圧迫することを懸念している。

(小平町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

新型コロナの影響は少なくなってきたが、ウクライナ情勢による物価高の高騰が大きく影響を受けている。機械を動かすには、電気が必要だが、電気料が高くなっており、資金繰りが悪化している。

(白神八峰商工会)

食料品関連の事業者は、原材料、光熱費など製造にかかるコスト全般が上昇し続けている。価格転嫁をしても続々と値上げの通知が来るので価格転嫁が間に合っていない。更に物価の高騰で消費者の購買意欲が低下する懸念もある。繊維工業関連の事業者は、被服需要は改善の兆しが見えつつある。一方で、仕入高、消耗品、電力光熱費などの増で採算は悪い。機械・金属関連の事業者は、得意先の影響を受け、受注が減少している。他の事業所からも単価が合わないとの陳情が相次いでいるようである。

(かづの商工会)

原材料価格の高止まりに加え、エネルギーコストの上昇が、利益を大きく圧迫している状況にある。物価高騰により価格転嫁しているところもあるが、エネルギーコスト上昇分については出来ていないところも多く見受けられる。更なる価格転嫁は、消費者心理を考えると行えないといった声が多く上っている。

(会津美里町商工会)

食料品製造業について、輸入原材料の高止まり、エネルギーコストの増加が続き、採算を圧迫している。出荷量はコロナ禍と比べ回復傾向にある。価格転嫁に踏み切れていないため、今後の情勢を見て経営判断が

(畑野商工会)

機械金属製造業・金属値上がり仕入単価上昇分の価格転嫁が難しく、価格交渉しても価格以外の部分(運送費など)を一時的に取引先が負担してもらう等の対応をおこなっている。食料品、繊維関連・電気料金、原材料の値上げなどにより工場の生産効率の悪化。

(坂井市商工会)

食料品関連の事業者は、先月と変わらず。仕入価格高騰が利益を圧迫しており価格転嫁が厳しい状況が続いている。繊維工業関連の事業者は、1月と比べて大きな変動はない。人手不足が慢性化しており人材確保が課題である。機械・金属関連の事業者は、仕入単価の高止まりが続いている。また従業員の高齢化・後継者不在により今後の事業継続の見込みが立たない事業者も見られる。

(みまさか商工会 勝央支所)

食料品製造業関連の事業者は、従業員不足をカバーするために短時間雇用をすることで生産効率のカバーを行うなど事業所なりに工夫を実施している。しかし、原材料の高騰は続いている。

(南九州市商工会)

仕入値価格の高騰継続により、昨年10月頃に値上げをおこなった製造業者が再度の値上げ策を真剣に検討せざるを得ない状況である。

(対馬市商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

受注量は安定している。人手不足感が一段と高まっている。

(富山市八尾山田商工会)

年度末を控え、多くの事業者が工期に間に合わせるため慌ただしい状況にある。全般的に収益確保状況は良好である。

(石央商工会)

建築・職別工事業、仕事量は安定。資材調達も特殊品以外は円滑。

(長野市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

建設業の中でも特に建築関係は原材料価格の高騰により採算が悪化している。原材料価格高騰を適正に価格転嫁できている先と自社の負担となっている先に分かれている。

(北栄町商工会)

仕入価格、または賃金上昇など経費が高騰している中で、長年の取引関係により上手く価格転換できずに苦慮している事業所も見受けられる。

(青森市浪岡商工会)

原材料価格高騰は、依然として継続しており、価格転嫁しようとする最終的に消費者へ大きく負担がのしかかってくることから、新築住宅も先延ばしにする顧客も多く見受けられるようになってきたとのこと。消費者の所得も目に見えて上がらないことから、新築案件も足踏み状態となっている。

(会津美里町商工会)

依然として資材の高騰が続いているため、資金繰りが悪化し採算をとるのが難しい状況となっている。そのため前年同時期と比較して、売上は落ち込んでいる。またロシアによるウクライナへの侵攻の長期化により、資材の納期遅延など悪影響が止まらない経営環境となっている。

(檜葉町商工会)

電気や燃料、材料価格の上昇だけでなく、外部の労務コストも上昇しており、工事価格にどこまで転嫁できるかが、課題であり、利益は伸び悩んでいるところもある。

(丹波市商工会)

新型コロナウイルスの影響に光熱費等の物価高による実質賃金の低下が投資意欲の減退を招いている。物価高による建築物の価格が20~30%高くなることにより、売上高だけをみれば以前とさほど変わらないが、利益水準はかなり低迷している。

(寺泊町商工会)

水道設備工事業では、コロナの影響も少なくなり新築住宅工事も進んでいるため引き合いは多い。サッシ工事業では年度末が迫っていることもあり工事高は増えている。一方で資材の値上がりも著しいため、値上がり前に部材をまとめて仕入れるなど単価を下げるための取組を進めている。

(神崎市商工会)

建設業全般において、仕事量は確保できているが、建築関係の事業者においては新規受注が価格上昇等の影響を受け厳しくなっている。

(松浦市福鷹商工会)

年度末ということで、売上としてはあまり変動はなく今は年度末期限の工事で忙しいと思われる。仕入単価はこれまでと同様、仕入れ単価の上昇に伴い、会社によっては採算があまり取れていない所もあれば、材料代の高騰に伴い、工事費の単価をしっかりと上げている所もあるように思われる。次年度以降も建設業界は仕入れ単価が会社の利益を左右するようになっていく。

(竹富町商工会)

住宅建築や改装を中心に受注が伸びており売り上げは増加しているものの、人手不足や原材料等の高騰により、採算性が現状又は若干悪化している。

(あまみ商工会)

引き合いはあるものの、従業員や人夫がおらず、機会損失につながっている

(春日市商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

衣料品小売業については、新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり外出の機会が増えている。よって、衣料品の需要が増えて売上が回復している

(呉広域商工会)

旅行支援等の恩恵を受けている事業者は売上が上昇している。

(香取市商工会)

・衣料品小売は厳しいながらもやや売上が戻ってきている状況。

(長洲町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

物価高等により消費者の買い控え傾向があり、客単価が上がらない。また、売上原価の高騰も歯止めがかからない。

(射水市商工会)

食料品、衣料品、耐久消費財は仕入れコストを価格に転嫁できているため、ある程度売り上げに反映できているが、値上がりに次ぐ値上がりで消費者の購買自体が減少しており、結果として売り上げの縮小につながっている。食料品のみ行楽の回復でコロナ禍に比べると回復傾向にあるものの、依然として厳しい状況は

(中央市商工会)

衣料品は、価格転嫁できており採算はとれている。仕入値上も落ち着きつつあり、脱コロナ禍の春以降に期待。食料品は、どの事業所も物価高の影響を強く受けており、例外なく採算性は悪化している。また、事業所数としては限定的であるが、JA運営のスーパー閉店に伴う影響が今後出てくる恐れあり。耐久消費財は、円安・物価高騰により仕入単価が上昇。消費動向指標も依然として低調で、収益確保に苦慮している先が多い。家電販売においてはリサイクル品を好む消費者が増加している模様。

(岩美町商工会)

衣料品小売関連事業者では、カジュアルな衣料品に関して物価高騰の影響で客足は鈍い。一方、春の新生活の為の衣料品は昨年同月と比較すると動きがあると感じる。食料品小売関連の事業者では、価格高騰の影響が続き、予算を越えない様に購入点数を抑える傾向が如実に見られる。今年は2月に降雪も少なく、客足は大きく変わっていない。耐久消費財小売関連の事業者は、商品が動き始める時期ではあるが、引き合い・成約は期待を下回り低調とのこと。仕入単価の上昇傾向は続いている。

(北栄町商工会)

事業所によってももちろん売上額も違うが、売上額が増加している所は観光客数に応じて売上も比例しているように思われる。西表地区の小売業は、立地のいい事業所は仕入れ単価は引き続き増加しているが、売上もしっかり確保できているように思われる。観光客数があまり変化がない島は、売上が上がらず、その反面仕入れ額は上がったりと資金繰りも苦しいように感じる。

(竹富町商工会)

観光客が増加してきており、宿泊・飲食関係も動いており、関連して売上高は増加している。しかしながら仕入れ価格も上昇しており、転嫁しつつ対応してはいるが、買い控えなども顕在化している。

(屋久島町商工会)

食料品小売業関連の事業者は、仕入単価の高騰に伴い小売価格も上昇するため、消費者の買い控えと取引先の飲食店もコロナ禍前の売上げに戻らないため、景気回復は当分望めない。

(南九州市商工会)

衣類小売については、昨年同月では業況の改善がみられたがそこからの同月対比での伸びは小幅である。各業種共に、仕入単価の上昇が目立つ。

(玖珠町商工会)

衣料小売業はコロナ禍の影響で入荷が遅くなっており、その影響で売上に響いている。食料品小売業は鳥インフルエンザ流行により卵、鶏肉などの値上げが響き、値上げで売上があがっても収益が確保できない状況が続く。耐久品消費財は仕入れ高騰で収益確保難しい状況続く。

(宇城市商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

旅行・宿泊関連業については、改善傾向だった昨年同月から更に業況は改善。afterコロナの反発需要となっている。同様に飲食関連業についても売上は改善傾向であるが、仕入単価の上昇により、商品単価を上げる事業者が増加している。

(玖珠町商工会)

特に旅館・宿泊所では全国旅行割支援が形となり、週末を中心に宿泊予約は埋まっている。ただ、旅行割分の送金が1~2か月後の後となるため、仕入や人件費は前もって対処しなければならず、逆に資金繰りに困っている状況も見られる。

(北茨城市商工会)

外国人観光客が昨年コロナ禍に比べ大きく増加した。外国人観光客は長期滞在をするため、土日のみの日本人観光客に比べ宿泊施設の稼働率が上がり売上は増加している

(野沢温泉商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

旅館…前月に引き続き全国旅行支援の20%助成だけではインパクトに弱く昨年に比べると宿泊利用は少ない。3月も同様の助成が継続されるが効果は限定的であり、ホテル独自の特別宿泊プランを用意するなど企業努力により少しでも多くの宿泊利用を促している。洗濯…仕入値は10~15%上がっているが、料金の値上げは踏みとどまっている。4月の電気料金値上げを受けて、値上げを検討。理・美容…電気料や燃料費高騰による影響から採算が厳しくなっており、新年度のメニュー価格の値上げを検討。従業員を募集しているがなかなか申込がないため、完全予約制で人数制限をしながら営業しており、新規雇用による売上の増加を

(由利本荘市商工会)

旅行支援により利用客は多くなっているが、原材料高騰が続いていることから採算がとれていない。クリーニング事業については、原油価格の高騰と洗剤の進化により顧客離れが続いている。美容院での取り扱い商品の値上げが続いている。

(南丹市商工会)

・宿泊業は旅行割の影響で好調。・洗濯業は客足減少で厳しい。設備の老朽化も相まっている。・理美容業は固定客が微減で厳しい状況。

(長洲町商工会)

旅館サービス業は新型コロナウイルスが落ち着き国・県の行動制限緩和で、来館数が回復し、売上は増加傾向にある。理美容業や洗濯業は行動制限緩和による良い影響が思ったほど現れていない。

(宇城市商工会)

旅館関連のサービス業は、全国旅行支援等で予約数も増加し、売上も回復しつつあるが、原材料高、光熱費等の増加により、厳しい状況に変化は無い状況である。洗濯関連の事業者は、売上は減。2月は例年暇である。3月・4月になり衣替えが始まると忙しくなる。原材料は、春から値上げされる予定である。理・美容関連の事業者は、昨年値上げした分が、売上に上乘せされてはいるが、その分材料費・水道光熱費が上昇しており、利益は薄い。追加オプションなど遠慮される方が多い状況である。

(みまさか商工会 勝央支所)

旅館は、行動制限なしやマスク着用緩和の流れにより、多くの事業所で前年を上回る売上となっている。ただ、光熱費や食材などが高騰しており、苦慮している事業者も多く見受けられる。洗濯は、売上はコロナ禍前に戻りつつあるが、季節的な要因もあるため楽観視できない。燃料費、材料費の価格上昇は利益を圧迫。2月から値上げをしたが、大きな客離れにはなっていない。理・美容は、お客様の利用回数は減少、コロナ前の売上には回復していない。既存顧客確保の為、自家の来店を促すよう声掛けを行っている。後継者がいる

(岩美町商工会)

旅館業者は、昨年2月よりは予約も入り売上も増加。ボイラーを使用しているため水道光熱費の高騰が利益を圧迫しており苦戦している。洗濯業関連の事業者は、依然として冠婚葬祭が縮小し、礼服クリーニングが減少。洗剤・ビニール袋・ハンガー等石油製品の高騰が続き利益縮小。理美容業関連の事業者は、コロナ感染者が落ち着いてきているものの、物価高騰で美容資材も値上げが続いている。光熱費も高くなり価格転嫁が課題となっている。

(米子日吉津商工会)

年始から続いている全国割があっても冬期の閑散期であるため客足は鈍い。コロナ関連融資の返済開始が迫る中、ゼロゼロ融資の手続きを進めている事業者が何件か出てきた。またコロナ禍に人材を整理した関係で部屋出し在庫を制限するなど人材不足も加速している。

(高山北商工会)

宿泊業は、今迄この地域は観光というより、作業員の宿泊が多く利用しているので、売上への影響はそれ程無い。しかしコロナ禍の影響が徐々に緩和されてきて落ち着きを取り戻しつつあることから、観光施設への宿泊等が増えている傾向にある。しかし光熱費の高騰が観光宿泊業へ与える影響は大きく、お客様は増えているものの利益が伴っていない状況で厳しい経営状況である。理美容業は、お客様は、徐々に戻りつつあり、売上も増加している。仕入れが高騰していることから、価格転嫁に踏み切る傾向にある。

(檜葉町商工会)